

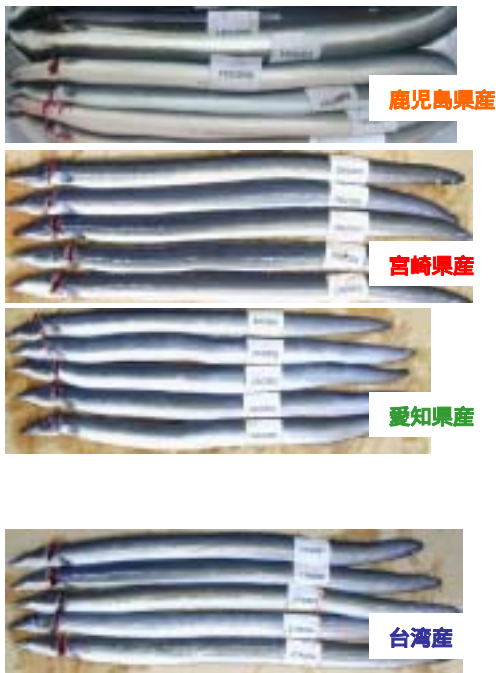
## 多元素分析による魚介類の原産地判別法の開発

### 背景と目的

1. 消費者が産地表示に関心を持ち, 産地偽装を許さない気運が高まっている。
2. JAS法による原産地表示が義務づけられ, 科学的な産地判別技術が求められているが, DNA分析では困難である。
3. 魚介類の生育環境の違いが微量元素の蓄積に反映すると考え, 多元素の一斉分析により産地を判別する手法を開発する。

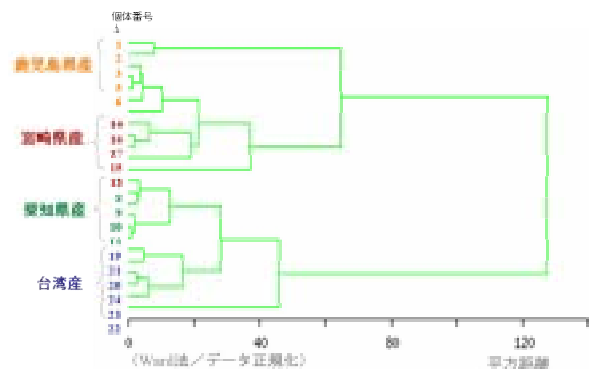
### 成 果

1. ニホンウナギの骨の多元素分析によって, 産地ごとに元素組成比が異なることが明らかとなった。



国内生産量 2.2万 2.0万トン  
(主要産地: 鹿児島, 愛知, 宮崎, 静岡)

輸入量		台湾	中国
活鰻		2.1 1.3万トン	0.1 1.2万トン
加工品		0.2 0.3万トン	4.5 3.7万トン
		(2003)	(2005年)



ニホンウナギ中骨の12元素の組成比による産地別のクラスター解析

(V, Mn, Co, Cu, Zn, As, Se, Sr, Rh, Cd, Pb, U)

### 波及効果

1. 多元素分析によって生育環境や原産地を推定できるようになる。
2. 原産地表示を科学的に裏付け, 偽装表示を防止する。

問い合わせ先: 利用加工部 品質管理研究室(山下)